

科目ナンバリング		U-LAS54 10008 LJ13							
授業科目名 <英訳>		ビッグデータ分析による問題解決実践 Problem solving practice by big data analysis			担当者所属 職名・氏名		学術情報メディアセンター 教授 小山田 耕二		
群	キャリア形成科目群		分野(分類)	その他キャリア形成			使用言語	日本語	
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	木5		配当学年	主として1・2回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>本授業では、社会ニーズの可視化を通して、世界のかかえる課題を明らかにして、その課題を解決する方法をデザインする。デザインされた解決策をローカルな視点も含めた形で評価し、その評価結果を反映させた解決策を地域関係者に提示して、その有効性について評価する。具体的には、2015年9月の国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)をあるべき姿として、現状とのギャップを明らかにし、そこで認識された課題に対して解決策をデザインし、その有効性を検討させる。</p>									
【到達目標】									
<p>この科目を履修し、学修目的を達成した結果、社会ニーズの可視化を用いて、世界のかかえる課題の解決策をデザインできるようになる。解決策デザインの実践のために、科学的方法を利活用できるようになる。また、社会調査に必要な基本的素養を身につけ、科学的方法における仮説検証で必要となるデータとしては、各種オープンデータ、そして必要な場合には、学生自ら取得したデータを利用できるようになる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題についてフィードバックを含め全15回の授業を実施する。(各回1-3コマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> SDGs(持続可能な開発目標)の理解。グループ討議による問題意識の洗い出しと共有。 実証研究の進め方と科学論文の構成(IMRAD)、社会調査の方法の学習。 テーマを具体化するための地域関係者による講義・討論。 情報収集(地域関係者による講義、討論・学术论文の検索と評価) 情報整理(アンケート調査の実施：学生、自治体、地域住民、観光客など対象) 情報分析・表現(Excelを使った情報分析、Wordを使った論文形式レポート作成、ピアレビュー、PowerPointによる発表) 最終発表(日本語による口頭発表、表彰) フィードバック【1回】 									
【履修要件】									
インターネット、電子メール、ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトについて利用経験がある、もしくは授業期間内に自習できること。									
【成績評価の方法・観点】									
別途ホームページで指示する執筆要領に従って執筆された研究成果レポート(60%)とグループディスカッションにおける積極性等(40%)を考慮して成績評価を行う。									
----- ビッグデータ分析による問題解決実践(2)へ続く -----									

ビッグデータ分析による問題解決実践(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

『研究ベース学習』(コロナ社) ISBN:139784339077933

[授業外学修(予習・復習)等]

学生個人が関心をもつ社会的課題を授業前に調査し、授業中には、それらをクラスメンバーと共有しておく。その時にうけるフィードバックを受けて、授業後に追加的調査を行う。

[その他(オフィスアワー等)]